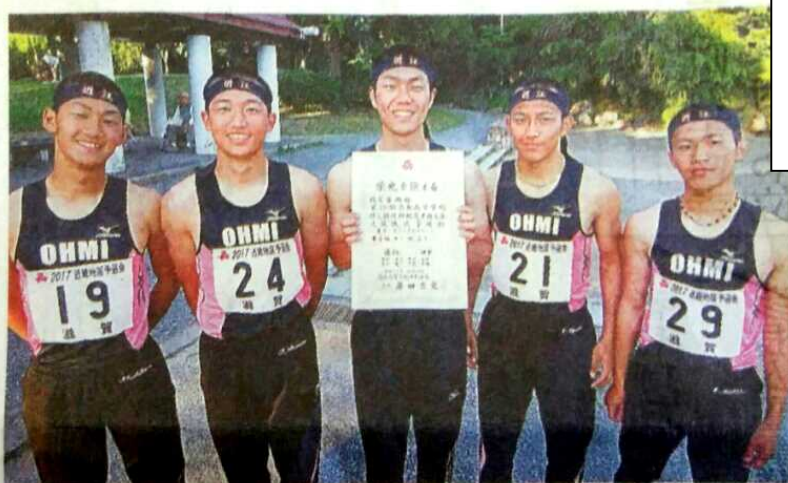


バトン渡しで決めた

男子400mリレーで近江



男子400mリレーで6位に入り、本大会初出場を決めた近江の選手たち

男子400mリレー決勝で近江（西田、井口、宮口、中村）が6位に入り、この種目で初の全国切符をつかんだ。井口主将は「チーム全員で走ろうという

気持ち、インターハイ出場につながったと思う」と喜んだ。メンバーのうち2人が同じ日にあった100mを欠場し、リレーに集中した。準決勝で

はチームのベスト記録をマーク。決勝はバトンを渡す区間での受け渡し歩数を4・5歩分伸ばし、勝負に出た。バトンリレーが決まり、アンカーの中村が追い上げて41秒31。7位とわずか0秒02差の激戦の末、6位に食い込んだ。

昼休みにもバトンを渡す練習を繰り返し、花本貴弘顧問は「リレーに特化した練習が重なった」と感慨深げ。井口主将は「県高校記録の41秒09を更新して決勝に進出したい」と意気込んだ。

近年の男子リレー 県大会の結果

2013年度	4×400mR	県大会	優勝	
2014年度	4×100mR	県大会	優勝	【大会新記録】
2015年度	4×100mR	県大会	優勝	
2016年度	4×100mR	県大会	優勝	
	4×400mR	県大会	優勝	【大会新記録】
2017年度	4×100mR	県大会	優勝	【大会新記録】

陸上近畿高校ユース 2年男子100

中村(近江) 湖国勢46年ぶりV

陸上短距離の近江高の中村恭輔が、9月に皇子山陸上競技場で行われた近畿高校ユース対校選手権の2年男子100mで優勝した。この種目の滋賀県勢の頂点は46年ぶり。今夏の全国高校総体400mリレーの初出場にも貢献し、先輩やま

チームメイトと切磋琢磨し自己ベストを大きく伸ばした。「いつも通りに走れたのが良かった」と満足そうに語る。同選手権の100m決勝は持ち味の中盤の加速で伸び、後半も失速しなかった。10秒62の自己ベストを出し

たが、「後半に走りが崩れた。課題が見つかった」。

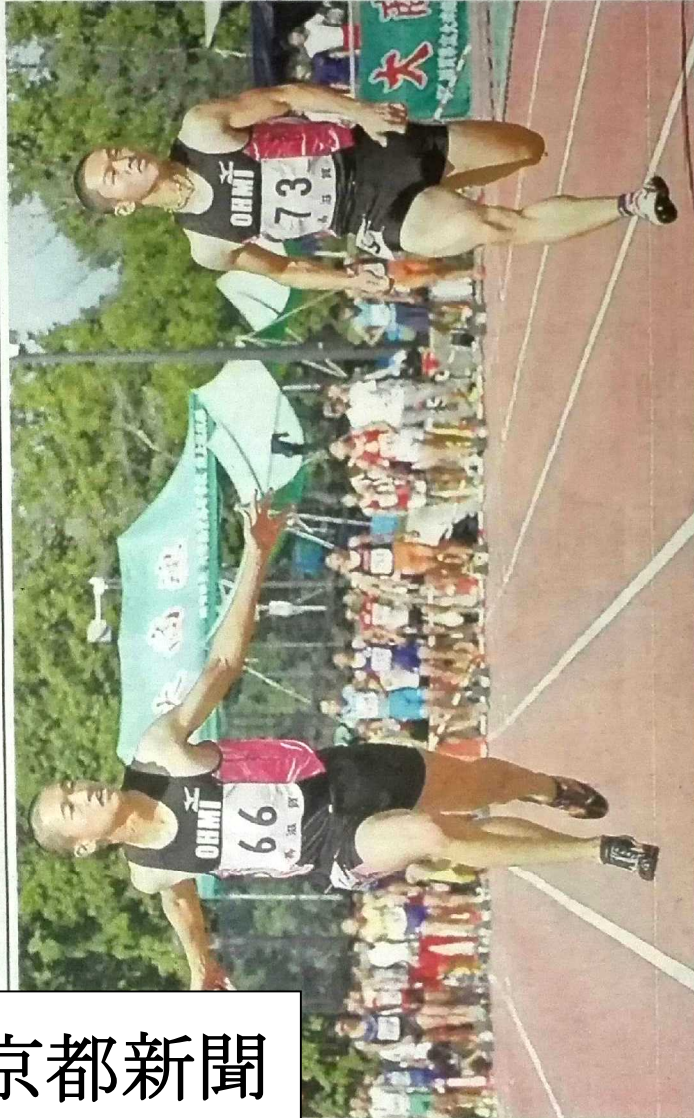
同高のほとんどの選手は中学時代に全国大会の出場経験はないが、今夏の全国高校総体400mリレーで準決勝に進出。中村も能登川中ではバスケットボール部で3年から本格的に陸上を始め、当時の自己記録は11秒61だった。ともに近畿ユースの決勝に進んだ西田竜也も入学当初の12秒台から10秒85まで縮めた。

練習は体の柔軟性を重視して40種類以上のストレッチを行い、スタートからの二段階加速を意識するためチューブを使う。男子陸上部の花本貴弘監督は「リレー中心のチームづくりで、試合では力を出すために集中ではなく余裕を持たせるようにしている」と語る。

中村は20、22日のU-18日本選手権が初の全国大会となる。「決勝に進み、新しい課題を見つけて成長したい」とん欲に語った。

(河北健太郎)

チームメイトと切磋琢磨 自己ベスト大幅更新



近江高で自己記録を伸ばした中村(左)と西田
＝布引運動公園陸上競技場